

一度は見ておきたい重要文化財シリーズ

大分の旅編
その1



今回は「一度は見ておきたい重要文化財シリーズ」と題し、歴史的価値、学術的価値の高い石仏や石塔をご紹介します、その魅力に迫っていきます。

観光情報も添えていますので、ぜひ実際に足を運んでいただき、その雰囲気を感じ、目でゆしみ、心で歴史に触れてみてはいかがでしょうか？

深田宝篋印塔(大分県臼杵市深田)

深田宝篋印塔は、大分県臼杵市深谷にある満月寺(まんがつじ)の本堂裏手に安置されている、日本でも最大級の高さを誇る宝篋印塔です。

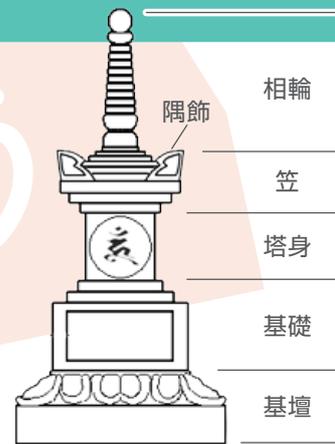
満月寺の近くにあり、その守護社である日吉社に因んで、「日吉塔(ひよしとう)」とも呼ばれています。

宝篋印塔とは

宝篋印塔(ほうきょういんとう)は、墓塔・供養塔などに使われる仏塔の一種です。上から相輪(そうりん)・笠(蓋)・塔身・基礎・基壇で構成されています。

方形(四角形)の塔身の上のせられた笠が階段状になっており、その四隅に隅飾(すみかざり)と呼ばれる馬耳形の突起があるのが特徴です。

本来は「宝篋印陀羅尼(だらに)」という経典を納めるための塔であったことから、この名前になりました。



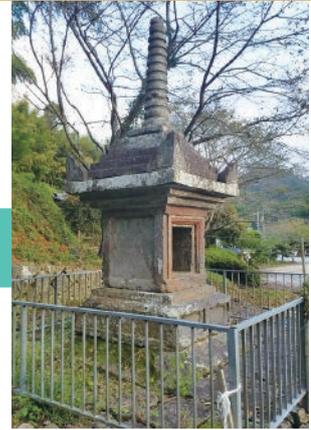
特徴

堆積(たいせき)岩の一種である凝灰岩(ぎょうかいがん)製。高さは総高4.44m(地上部分約4.2m)あり、宝篋印塔としては日本最大級の高さを誇ります。また、建立以来この位置を動いていないことが発掘調査により分かっています。

上から、相輪は一石でつくられています。笠の階段状の部分は、下2段、上6段、の2つの石で作られており、輪郭線が刻まれた隅飾は別石です。

四角い塔身の正面は、深く抉られて厨子形(仏像や経巻などを納める扉がついた仏具のような形)となっており、朱や白に色が塗られていた様子や扉が取り付けられていた痕跡も見られます。

基礎は、線形座（くりがたざ）と呼ばれる傾斜面に蓮弁を刻まない様式となっています。大きくも均整のとれた塔です。



歴史

深田宝篋印塔が建つ満月寺は、真名野長者伝説（まなのちょうじゃでんせつ）という大分県に伝わる民話の中で、中国から渡来した蓮城法師（れんじょうほうし）により創建されたと伝えられていますが、はっきりとしたことは分かっていません。

この宝篋印塔についても何のために建てられたのかは定かではありませんが、寺の鎮護のために建てられたのではないかと考えられており、塔の特徴から、制作年代は鎌倉時代中期（13世紀後半）のものと言われています。

1954年9月17日に国の重要文化財に指定されました。



周辺の観光情報

満月寺の正面には、石仏公園が広がり、さらに向こうには国宝臼杵石仏（うすきせきぶつ）と言われる61体もの磨崖仏（まがいぶつ／自然の岩壁や巨石に彫刻した仏像）があります。

深田宝篋印塔（日吉塔）は、これらの「臼杵磨崖仏」とともに国の特別史跡にも指定されており、石仏公園を中心に日本を代表する史跡に触れられるエリアとなっています。

春には、満月寺境内の桜や石仏公園の芝桜が美しく咲く様子も楽しむことができます。

交通アクセス



満月寺

住所：〒875-0064 大分県臼杵市深田963

〈最寄駅〉JR日豊本線「上臼杵駅」から徒歩44分（3.5km）

〈バス〉臼杵駅前のバス停から「大分県庁前行」

または「三重行」に乗り約20分

「臼杵石仏」で下車し、南東に徒歩5分。

〈自動車〉東九州自動車道「臼杵IC」より約22分

まとめ

今回は、大分県にある深田宝篋印塔（日吉塔）をご紹介いたしました。細かなデザインにも意味が込められ、受け継がれてきた思いがあります。

また、石塔自体の形だけではなく、建

てられた場所や土地に根付いていた神仏と人の文化に触れられることも、史跡を訪れる醍醐味ではないかと思います。

何百年も守り続けられてきた石塔。時代・文化を感じるその佇まいを、ぜひ現地に足を運んで体感してみたいはいかがでしょうか。